みなと元町 TOWN NEWS タウンニュース No. 310

発　行:みなと元町タウン協議会　住　所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内　発行人:奈良山喬一　編集人:岩田照彦　電話・FAX:078−391−0831

元町商店街のアーケード沿いの住宅立地について

ゼンクリエイト　根津　昌彦

2018年4月号のタウンニュースで書いた元町商店街沿道建物の壁面後退に関して、各商店街振興組合の役員会などで議論いただいた内容が明らかとなった。

「1番街、3丁目、6丁目は壁面後退ゼロ」を、「4丁目、5丁目は壁面後退原則ゼロ」である。ここで、原則という言葉が入っているか入っていないかの違いは、1番街、3丁目、6丁目は、壁面後退を認めないという意思表示に対して、4丁目、5丁目は、アーケード下の通りへの雨風の吹き込み対策をきっちりと行う場合は、認めることもあり得るという、ニュアンスの違いである。

4丁目では近年、商店街沿道敷地で相次いでマンション建設計画がおこり、その度に神戸元町商店街まちなみ委員会にて、事業者らと壁面後退について議論をしてきた。今回の1番街、3丁目、6丁目の回答は、これまでのまちなみ委員会での協議経過を鑑みて、まち側としての考えは神戸元町商店街の連続性を配慮し壁面後退なしを求めていくことを改めて確認した結果であると言える。また4丁目、5丁目はというと、壁面後退を積極的に認めていこうという訳ではなく、商店街としてのにぎわい形成を第一に考えながらも、現実的な対応として、壁面後退が土地利用上必要だと事業者側が主張するのであれば、雨風対策は必須であるということを明確に打ち出したと言えよう。

上記の壁面後退の他に、元町商店街沿道の土地利用、建物用途のあり方も、各商店街振興組合で議論いただいた。中でも、注目したい考え方は、建物低層階部分の住宅用途のあり方である。

1番街から6丁目までのすべての振興組合で示された考え方は、

- ●1階部分には、居室を持つ住戸専有区画は認めない
- ●2階部分には、居室を持つ住戸専有区画は認めるものの、アーケード下部分に居室があることが見えない設えとすること
- ●3階以上の部分は、居室を持つ住戸専有区画は認めるが、アーケード下部分の考え方は2階部分に同じ
- ●アーケード以外の道に接している敷地にあっては、1階にエントランスを設ける場合、アーケード以外の道からエントランスへのアプローチを設けること
- ●アーケードの道にのみ接している敷地にあっては、アーケード側からエントランスへのアプローチを設けることを妨げないが、商店街のにぎわいの連続性を保つために、例えば、住宅エントランスは間口の3分の1以下かつ5m以下とするなどの配慮した計画とすること（※左記例えは、敷地の状況などによって変わりうるものであり、あくまでも一例を示している）

というものである。

つまり、商店街沿道の土地利用として、今後も住宅用途が含まれる複合ビルが立地することは妨げないが、商店街のにぎわいが途切れることなく1番街から6丁目まで続いていくことを望んでいるという考えであることは、お分かりいただけるかと思う。

アーケードがあることによって、雨にぬれず買い物に出かけることができたり、鉄道駅にもアクセスできたりと、元町商店街沿道ならではの便利さ、まちの楽しみ方がある。現時点では、あくまでも景観形成市民協定に基づいたまちなみ形成ルールを保管する内規的な意味合いの上記考え方ではあるが、今後もさらに議論を重ねていき、こうした考え方を都市計画として位置づける「地区計画」の制定も視野に入れて、まちづくりに取り組んでいく所存である。

イタリア・ミラノのショッピングセンター「ガレリア」
（歩道に出ているテーブルセットはカフェのもの）

【元町・夢街道】(214)

書店の話(12)

鳩居堂(11)

岩田　照彦

熊谷幸介の事業は、創業から十年余の明治十七（一八八四）年、店舗を新築、書籍業は、神戸における業界の先駆者として順調だったようだ。

しかし、明治三十年代（一八九七～）後半になると、書籍や雑誌販売の業界は、参入自由であったため、同業者の増加によって熾烈な販売競争に見舞われる。当時の仕入れは、買い取り制度である。長期間の在庫に耐えられず、原価を無視して乱売する書店が続出、教科書ですら定価があってないような状況で、地方では、書物の販売は、副業商品として見られるような状態だった。

明治三十七（一九〇四）年、兵庫県が国定教科書の特約販売店に熊谷幸介、吉岡平助（宝文館）の両書店を指名したことは先にも書いたが、業界は異常な過当販売に荒れていた。業界の秩序を立て直そうと明治三十九（一九〇六）年、有志が集まり兵庫県書籍雑誌商組合を設立する。組合の綱領は、組合（員）相互の親睦を図ること、時弊の匡正を為すこと、定価販売の励行を目標、の三項目だった。

創立総会は同年十二月一日、元町六丁目の月花亭で開かれ、二十余名で構成する組合がスタートする。初代会長の席についたのは、同組合三十周年記念誌が「身を持すること謹直で、幼時から一貫して勤倹力行、瑣末なこともおろそかにせず慎重に対応、世情にもくわしく温厚篤実な人柄」、と紹介する業界の先駆者、熊谷幸介である。

幸介が命をかけた書籍商だが、大正二（一九一三）年六月、他界。六十七才だった。息子たちの中には書籍商を継ぐ意思はなく、翌大正三（一九一四）年、熊谷久栄堂は廃業する。大阪の業者によって市が開かれ、店に残されていた書籍は「びっくりする程の高値で」落札されていった、という。

昭和十一（一九三六）年十一月六日、兵庫県書籍雑誌商組合三十周年記念大会が神戸商工会議所で開かれた。結成時二十余名だった会員が五百二十名を数えるまでになった式典には、大阪、鳥取、和歌山など、近隣の同業組合代表者らも参列、午前十時、物故組合員恩人へ慰霊祭で幕を開けた。湊川神社の禰宜に導かれ、玉串を手に、はじめに祭壇に向かったのは、故幸介の子息・熊谷幸太郎だった。

神戸元町商店街 楽市楽座情報 6月

◇元町1番街商店街振興組合　TEL331−7850

元町占い市　6月13日（水）12時～17時
元町1番街水曜市 6月20日（水）10時～19時

◇凧月堂ホール（有料）　TEL321−5555

もとまち寄席「恋雅亭」

6月10日（日）
桂　雀太　　桂　三弥　　桂　出丸
笑福亭 呂鶴　桂　坊枝　　桂　千朝
前売券は5月11日より凧月堂で発売

◇こうべまちづくり会館ギャラリー（無料）　TEL361−4523

6月7日（木）～6月12日（火）
もとまちハートミュージアム2018（絵画等）
6月14日（木）～6月19日（火）
第8回 橋水会水彩風景画展（水彩）
6月21日（木）～6月26日（火）
第18回 風の会水彩画展（水彩）
6月28日（木）～7月3日（火）
第19回 新樹会 水彩画展（水彩）

◇元町映画館（有料）　TEL366−2636

6月2日（土）～6月8日（金）
『息を殺して』&『若き詩人』
『ピンカートンに会いにいく』
6月2日（土）～6月15日（金）
『獄友』・『かぞくへ』
6月9日（土）～6月22日（金）
『笑う故郷』・『サファリ／SAFARI』
『アイスと雨音』
6月16日（土）～6月22日（金）
『消された女』
6月16日（土）～6月23日（土）
『殺人者の記憶法』
6月23日（土）～7月6日（金）
『軍中楽園』・『港町』
6月30日（土）～7月6日（金）
『殺人者の記憶法 新しい記憶』
6月30日（土）～7月13日（金）
『名もなき野良犬の輪舞』

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は5月11日（金）10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、（元栄海三丁目協和会）奈良山喬一、（神戸市住宅都市局）坂田竜一・田中淳也、（広島銀行）山品理絵、（トマト銀行）藤原百花、（兵庫県信用組合）永田裕章・中西景子、（㈱神明）藤野太地、（神明倉庫㈱）藤尾憲弘・十時実希、（大一産業㈱）松井一実、（三鈴マシナリー）佐治孝雄、（㈱イーエスプランニング）上村洋介、（走水神社）兒嶋英毅、（まちづくり会館）小椋辰海（新光明飾）西村友博、（佐田野不動産㈱）佐田野宏之、以上17名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。

編集後記

戦時中の昭和18年3月2日、野球用語のすべてが日本語化されることになった。ベースボールは、敵性スポーツであり、使用する用語は総て日本語で、と義務付けられた。ストライクワンは「よし1本」、フォアボールは「一塁へ」、アウトは「ひけ」、三振は「それまで」。生まれがアメリカの球技だけに、試合のリズムを作るのに、さぞ苦労したことだろう。選手の動きにも影響したのではないかと想像される。いま野球発祥の地アメリカへ、日本の一流選手が高額で引き抜かれ、アメリカの球場で熱烈なファンを集めている。今期、投打に秀でた大谷選手が野球の本場に登場した。こればかりは「二刀流」が似合う。

海という名の本屋が消えた（55）

平野義昌

松方幸次郎　その5

1928（昭和3）年5月、松方幸次郎は31年間に及ぶ波瀾万丈の経済人活動を一旦終えた。同年2月に長男を病で亡くし、失意の失業生活だった。山本通（現在神戸市中央区）の邸宅を手放し、須磨町中マセ垣（現在神戸市須磨区須磨寺町）の別邸に移る。

〈幸次郎の朝は、早かった。子供たちが布団の中でむずかっているころに起きた。着物を無造作にはおって下駄を履くと、家を出る。それから路地伝いに東へ少し歩くと、銭湯の暖簾をくぐる。これが、判で押したような朝の日課だった。／心の底の無念や寂しさは、おくびにも出さない。朝風呂の常連を見かけると、／「おう、元気か」／と声をかけ、ニコッと笑って肩をポンと叩く。（中略）布袋腹を突き出し、下がり眉毛を一層緩めて「おう」。須磨の古老たちが一致して覚えているのは、この光景である。〉註1

地域社会に馴染んだ気さくな姿が伺える。元川崎造船所社員が営む美術店で話し込んだり、造船所に出かけることもあった。

32（昭和7）年、幸次郎は石油業界に参入する。造船所時代に鈴木商店系列の石油会社社長に就任していたし、失業中もエネルギー問題を研究していた。英米資本と国内大手六社が石油価格を支配している状態を経済上・国防上得策ではない、と提言した。切り札はソ連石油輸入。エネルギー供給は国策、国と大手企業の壁は厚い。35（昭和10）年、大手とともに《日ソ石油株式会社》を創立するが、結局ソ連石油の権利と施設を譲り渡す。業界に一石を投じたものの、幸次郎は敗退した。

36（昭和11）年2月、幸次郎は政界に入る。鹿児島一区から衆議院議員に立候補し、当選（造船所社長在職中に一期経験）。大政党に所属せず、尾崎行雄らと院内会派を組んだ。選挙後まもなく、若手将校による「二・二六事件」が起きる。日中戦争が拡大し、日米関係は危うくなる。幸次郎はアメリカの国力を熟知している。自身のコネクションで関係改善を目指した。個人の力では及ばず、日本は対米戦争に突入し、敗戦。川崎製を含め日本の軍艦はすべて沈没してしまった。

戦後、幸次郎はGHQにより公職追放になり、表舞台から退場する。49（昭和24）年脳溢血で倒れ闘病生活。翌年6月24日、次女・為子にカトリックの洗礼を授けられ、息を引き取った。

幸次郎が蒐集を開始する動機は、イギリスで文化・芸術の力に目覚めたこと、日本の資本家の力を示すため、西洋の優れた絵画を画学生や大衆に見せるためなどと紹介してきた。浮世絵コレクション一括購入は日本の宝を取り戻すためだった。私はもっと根源的な動機があるのではないかと想像する。

神戸市立博物館・辻学芸員は幸次郎の美術品蒐集に川崎造船所創業者・川崎正蔵の影響を見る。註2

正蔵と父・松方正義との関係、幸次郎の留学費用負担、正蔵の三男と幸次郎の縁などなど、幸次郎と正蔵には創業者と後継者以上の繋がりがある。

正蔵は古美術に造詣が深く、茶・華・書を嗜んだ。中国・元時代の《寒山拾得図》（重要文化財、現在国立博物館蔵）、同《宮女図》（国宝、個人蔵）他、2000点を超える美術品を蒐集した。布引（現在中央区加納町1丁目）の邸宅敷地内に茶室、美術館、美術品庫を設け、1890（明治23）年9月、川崎美術館を開館（別棟に展示館「長春館」）し、公開した。正蔵の開館挨拶にこうある。

「……広く美術家の参考に供し其道進歩の一助となすも豈国家に裨益なしとせんや」註2

正蔵は幸次郎に造船所を任せた後、尾張七宝焼の職人を招き、邸内に製作所を創設し、支援している。中国・明の七宝焼も蒐集しており、その再現をめざして研究・製作させた。その成果として、1900（明治33）年パリ万博に大花瓶と大香炉を出品した。

正蔵は、蒐集について「気品優秀」な日本の美術品が金銭的理由で海外流出するのを防ぐためと言い、美術家支援は「快心の美術品」を製造してもらうためと言う。註2

さらに、「美術家優遇は刻下の急務」、政府は勲章でも金銭でも奨励の道を講ずべきと持論を展開している。註3

〈短期間のうちに事業の成功を見た松方が、次になすべきことを川崎に倣い、共楽美術館の建設を使命として掲げたということは考えられないだろうか。それは、川崎と同様、日本の国と日本人の画家たちのためであったが、最初はそれほど美術に趣味のなかったという松方にとっては、亡き川崎正蔵への憧れや、追善としての意味も含まれていたかもしれないと、想像をたくましくしたくなるのである。〉註2

12（大正元）年の正蔵死去後、遺言により所蔵品目録『長春館鑒賞』全6巻が作られ、14年の三回忌で配られた。川崎美術館は「日本における私立美術館の嚆矢」註4と評価されるが、美術品は造船所破綻時に債務弁済のため売り立てられた。戦後、川崎家に残っていた美術品99点も財産税支払いのため売却された。《寒山拾得図》は国立博物館に入ったが、多くの名品が海外に渡った。註5

正蔵のコレクションは散逸してしまった。

さて、私がもう一つ着目するのは、前回の野上弥生子作品『真知子』にある表現。

「（幸次郎が）一代であれだけの富を成すには碌なことをしていないのは事実」

「（名画を）日本のものにした功績で、過去のことは帳消しにしてやってもいいだろう」

小説の背景には大正から昭和初めの社会主義思想、労働運動の高まりがある。「碌なことをしていない」は川崎造船所が他国の戦争で多大な利益を得たことを指すだろう。

私は、幸次郎自身も「碌なことをしていない」ことに良心の呵責を感じていたのではないか、と思う。理由は、幸次郎の思想と行動の成り立ちである。大学予備門で規制に反抗して退学処分を受け、アメリカ留学。科学と法学の勉学に励み、民主主義・平等主義を学ぶ。特にエール大学法学部教授シメオン・ボールドウィンの教えは大きい。

〈熱血教授として語り継がれており、学生たちに法による公平やヒューマニズムを徹底的に叩き込んだ。彼の父親はスペイン船で反乱を起こした黒人奴隷を法廷闘争で救った弁護士で、この裁判が南北戦争を誘引したとも言われている。〉註6

幸次郎は造船所で8時間労働を取り入れるなど労使協調を心がけた。本稿では触れていないが、社内の事故保障や奨学金制度導入、中国革命家・孫文支援、新聞記者報道擁護、国際協調主義など、当時としてはかなり進歩的な考えで行動した。

私は幸次郎の蒐集を、国家社会に貢献した結果得た自らの報酬を社会に還元しようとしたもの、と考える。

幸次郎は経済でも政治でも敗北者だろう。美術館建設も実現できなかったが、《松方コレクション》の多くは公共の遺産になった。彼が一枚の絵も私物としなかったことだけで、私は彼の高潔さを信用したい。彼を支えた家族や社員、画商にも敬意を持つ。高貴なる者の義務と言うはたやすいが、実行は難しい。

幸次郎を看取った為子の言葉がある。

「彼は確かに時代より一歩進んでいた人でした。それだけに人の目には無軌道な人間として写ることもあり、ご迷惑をおかけしたこととお詫びしたい気持ちです」

「（父は）すでに一世紀近く前に国際人として生きていた人でした」註7

註1　神戸新聞社編『火輪の海――松方幸次郎とその時代――（上・下）』　神戸新聞総合出版センター　1989～90年
註2　辻智美「松方幸次郎の周辺――川崎正蔵と川崎美術館」（《松方コレクション展――松方幸次郎夢の軌跡――》カタログ、神戸市立博物館、2016年、以下『新カタログ』）
註3　山本實彦『川崎正蔵』発行・吉松定志、1918年
註4　中野明『幻の五大美術館と明治の実業家たち』祥伝社新書、2015年
註5　三島康雄『造船王川崎正蔵の生涯』同文舘、1993年
註6　服部孝司「ジェントルマンになったぼっけもん――幸次郎を変えたアメリカ留学の6年間」『新カタログ』。筆者註、ボールドウィン父の話は小説化（Howard Jones, Mutiny on the Amistad ,Oxford University Press 1987）され、スティーヴン・スピルバーグ監督が映画化。「アミスタッド」（1997年）
註7　松方為子「亡父を偲んで」（『松方コレクション点いま甦る夢の美術館』カタログ、1989年

写真　須磨の松方幸次郎別邸跡、「須磨寺町公園」。

出来事ファイル（№18－6）

■走水神社内稲荷神社に鳥居奉納

中突堤の根元にある神戸ポートタワーホテルを経営する㈱アベストコーポレーションは4月24日、同社を経営する松山英樹・みきお夫妻名で、走水神社境内に祭られている稲荷神社に鳥居を奉納した。昭和57年7月に、地元の野網・赤坂・矢内・山端氏らにより奉納され、傷みが目立つようになっていた。当日、5・6丁目の氏子らが集まり奉祝した。

■元町商店街でマジックパラダイス

4月29日(日)11時から17時まで、元町5丁目商店街では、「マジックパラダイス」として、5丁目全町にわたりマジシャン7名が登場、手品をたのしむ人たちで賑わった。毎週日曜日、4丁目まちづくり会館前で子供向けに手品を楽しませているモハメッド福岡さんが5丁目商店街の誘いを受け、厳選した仲間を集め初イベントとして展開したもの。

■元町シスターズ　こどもの日に歌う

元町シスターズは5月5日午後2時から、一番街ユニクロ前のステージで、恒例になった歌声を披露した。歌ったのは、好きな町・こいのぼり・背くらべ・夕方のおかあさん・贈る言葉・抒情歌メドレー・Birthday、そして閉めの曲は「私の好きな元町」。

店舗の移り変わりや出演者の高齢化もあるなか、元町の心をうたうシスターズの歌声に道行く人たちは大きな拍手で応えていた。

■「TEN×TEN神戸元町」6丁目に開設

NPO法人神戸グランドアンカーは、「神戸波止場町TEN×TEN」として丸12年波止場町で活動してきたが、2月末契約終了を機に元町通6丁目に移転「TEN×TEN神戸元町」として3月1日、コスチュームジュエリー、伝統組子、写真×絵画、ガラス絵、アート&マタニテイ、鳥瞰図、彫金、写真, 造形、漫画など多彩な作家の活動拠点としてオープンした。

■元町穴門商店街でインフィオラータ2018

4月28日(土)、元町穴門商店街いっぱいにチュウリップの花を敷き詰めたインフィオラータが開かれた。中華同文学校からも多数が集まり、生誕150年を迎えた南京町の作品など、華やかな色どりで穴門筋を飾り立て、道行く人のカメラで写し取る場面がみられた。色付けには、花びらのほかに杉の葉もあしらわれ、色彩豊かなインフィオラータに。

■元町児童絵画コンクール展

30回目になる元町児童絵画コンクール展が4月28日(土)から5月6日(日)まで元町5丁目商店街で発表、展示された。今年のテーマは「みらい・・・」応募数は1028件で、初めて千件を超えた。兵庫県知事賞には、夜空に虹と太陽を描いた魚崎小学校1年生の中原　優さんに。選者の宮崎みよし先生は「もっともっといっぱいの夢を絵に描いて教えて下さい」。

■元町商店街で外国人おもてなし

神戸市みなと総局は、4月12日と18日、セレブレテイ　ミレニアム号の神戸入港にあわせ、市内観光する乗船客のため、元町商店街の1から6丁目にテーブルを設け、神戸市内の案内はもちろん、種類の多い日本茶の飲み比べやお菓子の食べ比べ、風呂敷の包み方、折り紙など、日本での体験コーナーを設け、神戸での一日を元町商店街で楽しんでいた。

■『時空・港神戸』作品展

宮崎みよし氏が運営するプラネットアースに集う画家・写真家・造形など多彩な作家たちがが、5月3日(木)～8日(火)まで、タイトル「時空・港神戸」のもと、まちづくり会館地下ギャラリーで作品展を開いた。港神戸を時空でとらえた写真、絵画、彫刻作家に芸工大まんが表現学科生など30名を超える作家が神戸港に挑戦、壁面・床面いっぱいに作品を展開した。

「にぎやかな海面」作・椿崎和生

□読者プレゼント

郷土作家シリーズ『佐々木猛作品展」

東京美術学校中退後、絵画模写の仕事を経て昭和11年から兵庫県下で教べんをとり、昭和32年、明石の魚住に窯を築き制作。本展では、ユーモラスで観る人をどこか懐かしい気持ちにさせてくれる焼物と絵画作品を展示する。

観覧ご希望の方は、はがきに住所・氏名・年齢・本紙へのひとことを添えて編集部まで。先着順で、5名の方にペア招待券をお送りします。

期間　6月2日(土)～7月1日(日)
場所　明石市立文化博物館
☎078－918－5400

佐々木猛「金太郎と鯉」